

母として小児科医として 地域医療に向き合う



「どんな小さな悩みでも相談してほしい」と話す佐藤さん

小児科医で、3児の母の佐藤真紀さんの「ぼのキッズクリニック」が7月1日、福島市大森にオープンする。福島医大付属病院の勤務医から念願だった開業へ。「子どもたちの健康を支え、地域に寄り添った医療に取り組みたい」と笑顔を見せる。

ぼのキッズクリニック（福島）

院長 佐藤 真紀さん

両親が医師の家庭に育った。人の命を救う仕事に憧れ、福島医大に進学。弟たちの面倒を見ていた経験から、子供の成長を間近で見守ることができる小児科を志した。医師として働きながら大学の同級生で医師の男性と結婚、3人の子どもに恵まれた。医大の少児診療に携わりながら仕事と家庭の両立に苦労した。幸い、職場の理解や近くに住む夫の両親の協力を得られたが、夫は帰りが遅いことも多く、夕方の子どもたちの世話は主に自分が担当だった。仕事終わりに保育園に迎えに行き、帰宅時間は午後7時頃。

お風呂や夕食と目まぐるしく動き、子どもを寝かしつけるが、疲れて一緒に寝落ちすることもある。子どもが熱を出すと病児保育を利用し、夫の両親にサポートしてもらった。

昨年、医大の先輩で医療法人健康会理事長を務める白河市のねもとキッズクリニックの根本健二院長から、福島市に小児科クリニック開業の打診があった。家族の応援もあり、20年勤めた医大からの独立を決めた。これまでの医師

としての実績と子育てで得た経験を生かし、子供とその親の両方に寄り添った関わり方を強みにしたいと考える。「どんな思いで診察に連れてきたか」「前の晩どのように看病していたか」。実体験に基づき、親の不安にも寄り添っていく。投薬にしても、「どうしたらお薬を飲めるのか」を考え、生活に即した的確なアドバイスを心掛けていく。

ぼのクリニックの「ぼの」はハワイ語で「心と体のバランスが取れて調和している状態」を表す。受診することで少しでも不安が解消され、安心してほしいと願う。「地域の小児科医は病気を治すことはもちろん、その子の成長を親御さんと一緒に見守る仕事。やりがいがある」。望月いづみ副院長、スタッフ9人と共に、地域医療を支えていく。

あす開業

■ぼのキッズクリニック
住所：福島市大森字附91
電話番号：024(597)6988
月曜日から土曜日まで、（午前診療）午前9時～正午、（午後診療）13時30分～17時30分で、木曜日は午後休診。第3木曜と日曜・祝日は休診。



明るい雰囲気の中、ぼのキッズクリニックの院内。佐藤院長（前列中央）ら11人が温かく迎える